

2022 年度(令和 4 年度)

事業報告書

学校法人 新島学園

目次

1. 学校法人の概要

(1) 学園の建学の精神と教育理念	2
(2) 学校法人の沿革	2
(3) 設置する学校・学科	3
(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4

2. 事業の概要(2022年度 事業報告)

(1) 法人本部	5
(2) 短期大学	6
(3) 中学校・高等学校	7

I 学校法人の概要

(1) 新島学園の建学の精神と教育理念

① 建学の精神

新島学園の名前は新島襄に由来し、「新島襄先生の人格をきん慕し、その遺風を顕彰しキリスト教精神を基本とする徳育を施し、品性高潔な国家社会に有用の人材を育成する」こととしている。

担う使命として、新島襄先生の教育理念に基づき「一国の良心ともいべき人物を育てる」を掲げ、また、「一年の計には穀を植え、十年の計には木を植え、百年の計にはすべからく人材を養え」との創設者の想いを基としている。

② 教育理念

・中学校・高等学校「教育5原則」

- 1) キリスト教精神を教育の基とする
- 2) 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
- 3) 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
- 4) 勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ
- 5) 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う

・短期大学「教育モットー」

- 1) 真理：自分の使命を探求すること
- 2) 正義：信念に基づいた行動力を持つこと
- 3) 平和：相手の価値観、感情を尊重すること

(2) 学校法人の沿革

1947年5月 新島学園中学校(男子校)開校

1948年4月 学制改革により、新島学園高等学校並びに附属中学校に移行

1951年3月 学校法人に組織変更し、新島学園高等学校高等学部・同中学部に名称変更

1968年4月 高等学部・中学部を男女共学とする

1971年3月 新島学園高等学校、新島学園中学校に改める

1983年4月 新島学園女子短期大学国際文化学科開学

1986年4月 新島学園法人本部設置

2002年4月 高等学校、中学校を併設型に改組

2004年4月 新島学園女子短期大学を新島学園短期大学に名称変更し、男女共学とする

国際文化学科を募集停止し、保育学科及びキャリアデザイン学科を設置

2006年4月 短期大学保育学科をコミュニティ子ども学科に名称変更

(3) 設置する学校・学科

設置する学校	開校年月	学科	摘要
新島学園短期大学	1983年4月	キャリアデザイン学科	2004年改組
		コミュニティ子ども学科	2004年改組
新島学園高等学校	1948年4月	普通科	
新島学園中学校	1947年5月		

(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況 (2023年5月1日現在)(単位:人)

学校名	入学定員	収容定員数	現員	摘要
新島学園短期大学	キャリアデザイン学科	130	260	195
	コミュニティ子ども学科	50	100	84
新島学園高等学校	200	600	653	
新島学園中学校	200	600	515	

(5) 役員の概要

(2023年5月27日現在)

定数 理事 12人以内、監事 2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任	再任	選任区分
理事長	湯浅康毅	常勤	2008年4月1日	2021年4月1日	学識経験者
理事	岩田雅明	常勤	2015年4月1日	2023年4月1日	短期大学学長
理事	小栗仁志	常勤	2023年4月1日		中学校高等学校校長
理事	八田祥孝	常勤	2015年4月1日	2021年4月1日	学識経験者
理事	月本昭男	非常勤	2000年9月30日	2021年4月1日	学識経験者
理事	横山慶一	非常勤	2017年4月1日	2021年4月1日	学識経験者
理事	本井康博	非常勤	2021年4月1日		学識経験者
理事	増田貴治	非常勤	2021年4月1日		学識経験者
理事	原 誠	非常勤	2021年4月1日		学識経験者
理事	朝日研一朗	非常勤	2023年4月1日		学識経験者
理事	静 朋人	非常勤	2021年5月29日	2023年5月27日	評議員選出
監事	小瀧秀夫	非常勤	2019年4月1日	2020年9月30日	
監事	松村丈生	非常勤	2020年9月30日		

(6) 評議員の概要

(2023年5月27日現在)

定数 25 人以内

氏名	選任区分	氏名	選任区分
成田小百合	法人職員	小林士郎	学識経験者
石井俊明	法人職員	小堀良夫	学識経験者
松本恵美子	保護者	澤浦彰治	学識経験者
櫻井雅寿	保護者	武井弘子	学識経験者
爲谷貴士	保護者	富田全子	学識経験者
静朋人	卒業生	南都隆道	学識経験者
下城郁雄	卒業生	半田充	学識経験者
関千景	卒業生	藤口光紀	学識経験者
田中美香	卒業生	細谷可祝	学識経験者
湯川嘉昭	卒業生	丸岡えみ	学識経験者
天田清之助	学識経験者	三宅豊	学識経験者
有馬平吉	学識経験者		
荒川朋子	学識経験者		

(7) 教職員の概要

(2023年5月1日現在)(単位:人)

区分		短期大学	高等学校	中学校	本部	合計
教員	本務	17	33	30	0	80
	非常勤	48	17	11	0	76
職員	本務	15	6	4	4	29
	兼務	3	1	1	0	5
合計		83	57	46	4	190

2022年度 事業報告(法人本部)

No	活動計画	No	施策	2022年度の取組み
①	「建学の精神」推進 ※新島七五三六活動を統合	1	学生生徒、教職員、保護者、理事/監事/評議員などを対象とした「新島菓を学ぶ」機会の実施 (講演会/研修会/修業会などの開催、出版物等を通じた理解促進)	・新島学園創立75周年記念書籍「新島学園ものがたり」(本井康博氏著)を贈呈(理事/監事/評議員/教職員 学園関係者 約700名)。 ・理事/監事/評議員 合同研修会を開催(講師:本井康博理事)。
		2	新島文化研究所活動の推進(新しい形での「上毛教育月報を読む会」開催、地域教会との関係構築など)	・新島文化研究所会議の開催(定例会議・全体会議)。 ・「上毛教育月報を読む会」を開催(2月)。
		3	中高75周年記念事業(周年記念出版物の発行、校歌オーケストラ楽譜の作成、など)	・新島学園創立75周年記念書籍「新島学園ものがたり」発行。 ・中島ノブユキ氏による校歌オーケストラ楽譜作成、クリスマスコンサートにて発表。
②	「いのちの教育活動」推進	1	良し心教育の独自化と具現化	・「いのちの教育」の趣旨等の理解促進(理事会/評議員会等にて理事長が説明)。 ・「いのちの教育」実施に向けた教職員への説明、個別ヒアリング。 ・国/宗教の観点からみた「いのち」について、関係者へのヒアリング。
		2	キリスト教教育を担う宗教科における6年間カリキュラムデザインの構築	・宗教科教員と検討中。(来年度への課題)。
		3	いのちをテーマに教科・学年横断型の課外授業創出(LHR含む)	・新島学園ファームにおける大豆/菜種/小麦の播種。
		4	中高「ピアサポート」の推進(宗教科でのトライアル実施)	・宗教科教員と検討中。(来年度への課題)。
		5	学内完結型<学外連携型(PTA、同窓会、後援会、自治体、地域社会などとの連携・協働)	・かぶら大豆生産者組合との連携。 ・食(いのち)に携わる企業への視察/ヒアリング。
③	「ガバナンスコンプライアンス活動」推進・強化	1	透明性の高い会議体(理事会、評議員会、監事報告会、会計監査報告会、など)の運営	・理事会/評議員会/監事報告会では、議決・諮問事項の適切な審議のほか、学園の諸課題に対する取組への提言や助言をいただき、施策に反映させる。 ・会計監査報告会では、監査結果や財務環境、求められる内部統制の重要性等、学校経営に必要な情報や取組の共有を行なった。
		2	コンプライアンス委員会の活動強化	・コンプライアンス委員会(4回)、監事意見交換会(4回)、ハラスメント研修の開催、学園諸課題への解決に向けた取組や対応策について共有を行なった。
④	「事業会社」推進	1	2022年設立(5月) ※第1期は決算会計年度(2022年5月～9月30日)	・2022年5月5日 附属会社を設立。決算期は10月～翌9月。第1期は受取期として9月末で決算終了。 ・全自販機取扱業者/制取取扱業者との交渉、中高/短大自販機の契約移行・増設。 ・75周年記念書籍の販売業務開始。 ・安中市商工会に加入し、会員として連携・情報共有を進める。
⑤	「働き方改革」推進	1	「働き方改革=生き方改革」意識の醸成(教職員自らが行動変容する意識改革)	・中高働き方/部活動改革委員会の設置。 ・中高働き方ワークショップの実施。 ・法人/短大「ワークフロー活用」の推進。
		2	教職員の業務の棚卸し/業務シェア/外部活用など、具体的施策の導入	・給与・賞与支払明細書のデータ配信を開始。 ・中高集金業務の自動化(ECシステム)。 ・中高運営委員会、教職員会議のペーパーレス化。
⑥	「ブランドマネジメント」推進	1	新島学園ブランド管理の強化および積極的な情報発信(HP、SNSなどを活用)	・短大 広報体制の強化、学校訪問・オープンキャンパスの強化。 ・中高 新HPリニューアル推進/パンフレットの作成/現行HPのメンテナンスと更新頻度の増加。
		2	キャンパス・ランドデザインの推進(ハード&ソフト両面での検討を開始)	・専門業者による中高施設の劣化度診断の実施、爆裂箇所等の改修、実施。 ・中高校舎内サインの統一化工事の実施。
⑦	「Edtech」推進	1	エンrollmentマネジメント推進のためのシステム構築(教育データの利活用、業務効率化など)	・短大事務組織の再編成し、業務の見直しやシステム改善を計画中。
		2	学生生徒の成長を支援するICT環境の強化	・中高ipad導入(4学年)/教職員ipad配布し、新しい教育環境の変化に対応する体制を整備し運用を開始。
⑧	「No Place like Nijijima」推進	1	「地域連携」の更なる関係構築(地域教会、地域企業、団体、地元自治体など)	・安中新市長との情報交換(安中市の将来を見据えた連携)。 ・国際基督教大学訪問(湯浅理事長・吉畑校長)。 ・短大 高大連携強化(7月:5校目となる藤岡北高校と締結)。 ・新島学園ファーム等を通じた、安中ロータリークラブとの連携。
		2	新島菓ゆかりの地/関係者(米田東部、京都、熊本、東北、函館など)との連携強化	・同志社大学への訪問による情報交換、連携強化。
⑨	その他	1	環境への配慮(SDGs含む)	・中高・短大での取組みをSDGsフレームに入れて再整理。
		2	多様性の理解と尊重(D&I含む)	・中高 生徒会と連携して「制服委員会」を再開。
		3	通常業務時での対応	
		一全ての活動を可視化し共有(いつまでにやる、を明確にする)	・公認会計士による、事務管理職に対する会計/内部統制研修の実施。 ・事務職員による情報共有会議の定例開催。	
		一業務効率化(蓄熱度だけに頼らない効率化を検討する)	・資金運用商品の情報を広く収集し、財務委員会における慎重な検討と迅速な意思決定による資金運用の強化(保有資金の効果的な運用)を継続。	
		一コストコンシャス(見積取得以外の時にも、常にコスト意識を持つ)		

2022年度 事業報告(短大) 「学生の人生に伴走する短大を目指して」

	No.	活動計画	No.	施策	2022年度の取組み
(1) 伝統を守る	①	キリスト教精神を生かしたキャンパスライフ	1	チャペルアワーの時間を学生が「自己の人生を考える時間」として位置づけ、聖書を題材としつつも、学生のこれからの人生と関連付けられる要素を充実させていくことで、学生のキリスト教に対する理解、共感を図っていく。	チャペルアワーについてアンケートを実施。15回中10回以上の出席者は74.7%であった。チャペルアワーが有意義だったかどうかの問いに対しては、63.9%が「有意義だった」と回答している。また、キリスト教の理解が深まったかという問いに対しては、72.1%が「深まった」と回答している。評価の高かった理由は、学生によるものと、キリスト教以外の教職員によるものであったが、これは学生の共感できる割合に比例していると思われるので、学生視点に立った奨励内容の検討も必要になる。
			2	新島短大のキリスト教教育について考えるプロジェクトチームでの検討結果をもとに、教職員に対して、建学の精神、キリスト教主義教育に関する研修を実施し、教職員がキリスト教による教育を、自分事として捉えられるように図っていく。	昨年から開始したキリスト教主義教育に関する教職員研修(意見交換会)を、3月下旬に実施。クリスチャンでない教職員も含めて、キリスト教主義学校で働く者として、キリスト教主義教育が与えることのできる価値について考える機会とした。
			3	キリスト教行事等の実施に協力する学生組織「ゴスペル」の活動を活性化し、授業やチャペルアワーだけでなく、日常のキャンパスライフにおいてキリスト教精神を体感できるようなプログラムを検討し、実施する。	「ゴスペル」の活動は次のとおり、月に2から4回のミーティングを持ち、聖書研究、讃美歌合唱などを行った。年2回の学生チャペルの際には、司会、祈禱、特別賛美を担当した。そのほか、キリスト教行事の準備、ポスター制作、飾りつけ等の活動を行った。メンバーは、2年生4名、1年生7名の計11名(全員CD学科)。
	②	エンrollmentマネジメント	1	入学前からの関係構築のための、高等学校との連携をより図っていく。そのため、「キャリア教育研究センター」によるキャリア教育支援体制を強化していく。	「キャリア教育研究センター」主催の公開セミナー「高校生へのキャリア教育が大学生活や就職に及ぼす影響」を8月に開催した。9月には、5校目となる藤岡北高等学校との連携協定を締結した。連携協定校とは、出張講義、学生と生徒の交流などのプログラムを実施している。2月から3月にかけて連携高校を訪問し、2022年度の活動に関して意見交換を行った。
			2	卒業生との関係性を構築するため、ホームカミングデーを実施するほか、就業上の課題解決、学び直しといったことに対応した取り組みを企画していく。	10月29日にホームカミングデーを開催した。卒業生69人、旧教員5名の参加があった。また短大に対する要望等も出してもらった。2023年度には、CC学科卒業生を対象とした、リカレント教育を実施すべく、現在、準備中である。
			3	就職先(企業/国など)や輸入先(大学)との交流を図り、円滑な意見交換の行える関係性を構築していく。	キャリアセンターを中心に、就職内定先企業8社を訪問。このほか、将来計画との関連で、3社を訪問し、人材ニーズの聞き取りを行った。また、こども園の園長たちの勉強会に参加し、現場の状況を聞きつつ、今後の協力を依頼した。
			4	在学生の状況を正確に把握し、それに応じた適切な教育・支援を行うことを可能にするため、IR活動を設計し、データの収集・整理を行う。	「ニイタラニング」というシステムを導入し、学生の基礎学力向上への取り組みと成果を可視化できるようにした。学生の自習時間を把握する「学習状況調査」も実施した。ただし、入試や成績データ等を活用したIR活動には至らなかった。
			5	エンrollmentマネジメントの実効性を担保するため、外部の委員を加えた点検委員会を組織し、本学の教育・支援活動に関して意見交換を行う場を設定する。	企業経営者、文部科学省の職員(元高校教員)の2名をお願いし、7月に人材育成全般に関してのミーティングを行った。
	③	新しい学びの形をつくる	1	企業等での実体験と座学を結び付け、学ぶ意欲と学習成果向上という学びの好循環をつくり出す授業「新短ワークプロジェクト」をスタートさせる。	授業以外の活動時間があることによる負担感があって、学外の活動に際しての移動手段が限られているケースが多かったりして、参加者が春学期7名、秋学期2名と予想よりも少なかった。4社で活動を行った。
			2	社会人養成講座の授業の中で、企業経営者とともにPBL(プロブレム・ベースド・ラーニング)型の学びを導入する。	社会人養成講座に7人の経営者が登壇し、これまでの体験や仕事上で心がけていること等話をしてもらい、その後、課題を提示し、次の週に課題についてグループワークを行うという取り組みを全7回実施した。10月、この取り組みを群馬中小企業家同友会主催の社会連携シンポジウムで発表した。
			3	群馬経済同友会、中小企業同友会、高崎尚光社街と連携し、インターシップ参加学生の増加を図る。	群馬経済同友会、群馬中小企業家同友会の協力を得て、インターンシップ受け入れ先を開拓したが、希望者自体がそれほど多くはなかった。
			4	コミュニティ子ども学科の学びを支援する。施設・設備に関する検討を開始する。	特に希望等が出ていない状況であるが、継続して検討していきたい。
	④	組織力の向上を図る	1	将来計画や学務マネジメントを計画し、着実に実行に結び付けていけるよう、執行体制を強化する。そのため、学長補佐(2名)を新たに任命し、学長室と連携して事業計画等の推進に当たる。	学長補佐を2名任命し、学長との打ち合わせ、学部長、事務長を加えた打ち合わせを行った。
			2	職員の組織や業務を見直し、効率的な業務遂行と負担の公平化を図っていく。	業務効率化を図っている大学を視察し、実施例を聞き取った。給与明細はペーパーレス化され、決済も一部電子決済が実施されている。
			3	教員の教育力向上を図るFDI活動を前後期に各1回実施し、効果を測定していく。	出版社の方を講師に迎え、学習成果の可視化等をテーマに研修を実施した。
4			職員の企画力や経営的視点を養成するSD活動を前後期に各1回実施し、業務改善等に向けた提案を促進する。	上半期に、管理職とそれ以外の職員にグループを分けて研修を実施。3月に後期の研修を実施。	
5			教職員の充実した働き方を考えるプロジェクトチームの検討結果をもとに、改善案を考え実行していく。	契約職員の正規職員化、休暇等の規程の明示、職員の昼休みの確保等を実施した。	
(2) 伝統を活かす	⑤	全国的なブランディング	1	就職支援体制、編入指導体制をさらに強化し、短期大学としてのトップブランドを目指せるような実績を挙げていく。	経営者による模擬面接、また編入支援として元高校教員を講師に国語・英語に関する講習を新たにを行った。2月から3月にかけて、1年生の就職希望者全員を対象に、キャリアセンター職員による面接を実施した。
			2	就職や四大編入等の実績を広く発信し、知名度を高めていく。そのため、広報スタッフ、学生広報メンバーの育成を強化する。	ニュースリリースやホームページの更新等に関して年間の計画を立て、それに従って発信、更新していく体制を整えた。ただし、計画的、継続的な発信という点では課題が残ったので、次年度、改善を図っていく。
			3	新聞などのマスコミや業界誌(紙)に紹介記事が掲載されることを目指し、そのための情報発信を行う。新聞等の掲載件数目標を年間50回とする。	2023年3月末現在で新聞等掲載件数は50件であった。
	⑥	将来構想の検討	1	短期大学としての今後の在り様について、他の事例等を研究し検討していく。	大学を支援する企業の担当者等の話を聞く機会の設定や、他の短大との情報交換を行った。
			2	四年制大学の現状、今後の動向等を把握し、これからの社会で求められる在り様について検討していく。	2大学の視察を行った。また県内の企業経営者3人に対して、求める人材像に関するヒアリングを実施した。現状、志願者の増えている分野に関する調査、新設大学の成功事例、失敗事例の調査、それに基づく教育プログラムの策定について討議を重ねている。
			3	将来の展開を見据えた施設・設備計画を立案していく。	将来構想との関係で、建築関係者の話を聞く機会を設けた。

2022年度 事業報告(中高一) 「良心教育の推進」

	No	活動計画	No	施策	2022年度の取組み
①		「建学の精神」および「教育の五原則」に基づいた教育を行う	1	キリスト教・聖書の教えに基づき、心豊かに社会を創造・リードできる人材を育成していく。宗教部と連携して、礼拝・キリスト教行事を充実したものにしていける。講演会や英語チャペルアワーなども、生徒の意見も取り入れて創り上げていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月25日(月)イースター礼拝は岡野和真牧師による特別伝道礼拝が行われた。 ・チャペルアワーは、先生による英語礼拝が、2学期に行われた。 ・毎朝の礼拝では、放送、礼拝堂、クラスなど様々な礼拝形式により、たくさんの先生方メッセージを聞いている。 ・また、年に4回ほどすべて生徒の奉仕による生徒礼拝を守っている。司会も奉来も生徒によるもので、聖歌隊や弦楽団の演奏があり、生徒たちがより礼拝を身近なものとして感じることができている。 ・10月11日(火) 荒川先生による特別伝道礼拝が行われた。 ・10月12日(水) 生地先生他4名の先生方による特別伝道分科会が行われた。 ・12月9日(金) 間嶋先生によるクリスマス礼拝が行われた。 ・1月18日(火) 森田春基先生による新島襄百天記念礼拝が行われた。
			2	新学習指導要領に基づき、総合学習・探究学習を通して、新島襄の生き方を学ぶ。新島襄の理想とする「ヘラルド」教育を実践すると同時に生徒・保護者に理解を深めてもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の授業は、高校では総合学習に位置づけられていて、1年から3年まで、週1時間ある。教科書はないので、それぞれ担当の宗教科教師の工夫や試行錯誤により授業を進めている。 ・1年次は群馬のキリスト者たち、ハンセン病、戦争と平和などについてキリスト教の視点に基づき考える時間。群馬のキリスト者たちを学ぶことにより、新島襄の考えを深く学び、新島学園の一員であることに誇りを持つことができるよう授業を展開している。 ・2年次はキリスト教の文化と歴史。特に歴史の授業では、キリスト教の歴史の中で興味のあるテーマを自分で調べ、まとめ、クラスで発表させている。自主的な授業への関わりを重んじる時間である。 ・3年次はキリスト教倫理。様々なテーマをキリスト教の視点から考える。自分の意見をしっかりと伝えるように、そしてお互いの意見を認め合い、受け入れることができるように授業を進めている。またカルトについて学び、社会に出たときの心構えについても学ぶ時になるよう心がけている。
			3	創立75周年記念事業 ※本井先生著書による75周年記念本の発行 ※校歌のオーケストラ用楽譜制作(中島ノブユキ氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・本井先生による新島学園を中心とした「新島学園ものがたり」が、創立75周年にあたり、創立記念日にあわせて出版された。 ・校歌のオーケストラ版が、本校卒業生の中島ノブユキ氏によって完成した。初演が、12月のクリスマスコンサートにおいて披露された。
②		改革委員会との連携を図り、ガバナンス・コンプライアンスを強化する	1	学園の安心・安全を確保するために、必要なものを備える。制度を整える。 充実した避難訓練、災害対策などを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルVer.7を完成し、教師間で共有することで、教師間の危機管理意識を高めることができた。 ・熱中症対策のマニュアルを新たに作成し、危機管理マニュアルに追加した。 ・避難訓練を1学期・2学期各1回ずつ行った。 ・1回目は4月22日(金)に火災・水害の避難訓練を実施。当日雨天であったため、放送による訓練を行った。 ・2回目の避難訓練は11月1日(火)に地震・火災を想定して訓練が行われた。避難は8分ほどで完了でき、まずまずであった。避難経路を最適化する余地がある。今回は安中消防署の協力を得て、消火器消火の訓練も行うことができた。
			2	教員が情報を共有し、チームワーク良く活動する。(ピア・サポート)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな出来事、継続事項の進捗等定期的な会合を持つことにより共有し、必要な対策を立てて対応することができた。 ・学年団単位での意思疎通をよくすることで、生徒および保護者への対応に共通の意識を持って臨み、よりよい対応をすることができた。 ・デスクネットの閲覧機能、教員一人一台所有している ipod を使用しての情報共有を実施している。各学年団では毎朝の情報共有として、学年主任から学年主任、学年主任から該当部長、部長から管理職への報告の流れが必ずしも実行されていない点は改善の余地がある。 ・目に見えない形で危機管理マニュアルなどができたことにより、困ったときにすぐに対応できるようになっている。
			3	ハラスメント・コンプライアンス・危機管理など透明性の高い	<ul style="list-style-type: none"> ・11月21日(月)ハラスメント研修が行われた。 ・ハラスメント研修を通じて、何が問題で問題の解決には何が必要かを考える機会を持った。 ・情報共有ルートとして、クラス担任から学年主任、学年主任から該当部長、部長から管理職への報告の流れが必ずしも実行されていない点は改善の余地がある。 ・目に見えない形で危機管理マニュアルなどができたことにより、困ったときにすぐに対応できるようになっている。
			4	いの中の教育の推進準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教、LHR、探究の授業の再編成により、探究プログラムの一部として、自らを大切にすることが他者大切にすることに繋がることを意識し、その唯一無二の自分と同じ大切な他者との関係の中でできることをプログラムとして構築した。 ・理事長/学園長による「いの中の教育」コンセプト説明が職員会議で行なわれた。 ・新島学園ファームでの活動を通じて「いの中の」を考える機会を作っている。 ・3月10日(金)に中学1年生、中学3年生を対象に「いの中の教育キックオフセミナー」を南都評議員ご夫妻、強矢義和氏をお迎えし、実施した。
③		働き方改革の推進および支援体制の確立	1	部活動数の検討および希望制を検討し、教員が共有の時	<ul style="list-style-type: none"> アンケートやヒアリングを行い、教員の意見を集約した。 以下の項目が進められた。 ・部活動の再編成 ・生徒会規約の見直し ・部の継続性についての想定・設定 ・クラブ化について ・非常勤講師・外部指導者の活用や外部団体との連携
			2	分掌などを整理・統合し、働きやすい環境を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・レコーディング調査(業務状態の見え方調査)を行い、業務状況を把握した。調査結果をもとにワークショップを開催し、課題等を共有した。 ・教務部、総務部、広報部の仕事内容を見直し、業務の円滑化を図った。 ・各分掌分掌の部長にヒアリングを実施。分掌の業務をまとめた。また、校務分掌にまたがる仕事も多々ある中で、役割分掌を明確にした。
			3	教員と事務が協力し仕事分担をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> 上記のレコーディング調査やワークショップにより、教員と事務職員の連携について確認した。 ・教諭の仕事と授業と学級運営などの生徒にかかわる仕事に集中できるようにするため、校務分掌や学級運営の中の事務的な仕事を洗い出して、教員の仕事から分離する検討を始めた。
			4	女性も働きやすい環境を整えていく。	<ul style="list-style-type: none"> 上記のレコーディング調査やワークショップにより、女性が働きやすい職場環境を更に整備していく事を確認した。 ・現在女性教員は、休暇制度を有効に活用し、家庭との両立を束縛する環境が整ってきている。今後は更に、女子生徒への働きかけなど女性教員ならではの働きが求められる。 ・情報収集をさらに進め、教諭の事務的な仕事から分離できるように仕事内容をリスト化して、実現できるように推進する。
			5	業務・役割を誰もが出来るローテーション化していく。	<ul style="list-style-type: none"> 上記のレコーディング調査やワークショップにより今後のローテーション化を図っていく。 ・校務分掌部長の一定期間での交代を念頭に置いて、一部の部で副部長を置いた。 ・校務分掌内では、各教諭が担当する仕事をローテーションしている。担当した教諭は、業務を経験者と一緒に行いながら経験・取得していく方法となっている。 ・組織貢献意欲・コミュニケーション力を高め、アクティブな組織に変えていく。 ・広報部長、情報部長、生徒会部長のローテーションを実施した。 ・業務・役割を誰もが出来るローテーション化するためには、各分掌の仕事内容のマニュアル化に着手していく。
④		生徒力・教員力の向上	1	自立自立した生徒を育てる。そのための研修制度を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立自立した生徒を育てるための教育のひとつに「総合的な探究の時間」がある。「総合的な探究の時間」を運営するために、担当する教諭が以前より研修に参加している。 ・来年度は、中学から高校までの「総合的な探究の時間」を見直し、授業内容を一新する検討を始めた。来年度のカリキュラムで実施できるように検討を進めている。そのための教員養成の研修も積極的に実施していく。 ・生徒会の「制服委員会」を中心に、生徒の意見を学校全体のルールに反映できるように進めている。
			2	生徒の学習意欲の向上を図る。英語力向上のプログラムなどを充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・エンパワメントプログラムを、短縮版とはいえ、今年では中3、高1の2学年全員に実施した。 ・来年度は、エンパワメントプログラムの名称を変え、別内容のプログラムに再編成されるにあたり、全員対象で実施できる短縮版のプログラムを探りたい。 ・来年度は、久し振りに実施できていないオーストラリア交流校研修の復活、アメリカボストン語学研修の復活を検討中。 ・学内のオリジナルプログラムであるグローバルイングリッシュキャンプについても、来年度は2泊3日の宿泊研修を復活する予定。
			3	教員の授業見学・授業評価などを行い授業力のある教員の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学、授業研修については、英語科が率先して実施している。管理職が定期的に授業見学を行うなど、緊張感を持たせた取組みができた。 ・来年度は、群馬県の研修だけでなく、外部研修へも積極的に参加する風土を作っていく。 ・中断していた授業評価アンケートの実施を検討中。

		4	出口対策として、指定校推薦と共に6年間一貫の受験対策を考えていく。	・理系の科目も6年間で受験に対応できるように力を入れていく。昨年度の実験の成果(医学部に5人合格)においても、中学からの一貫指導の成果。	
⑤	地域社会・地域教会との連携強化	1	地域活動を活発にし、地域から信頼される学園の構築。	・中学でのボランティア清掃において、地域との結びつきができた。(新島ファームの働きも含めて) ・安中市の商工会と家庭科部員が協力してロケ弁の新品を開発した。	
		2	地域教会と連携して、幅広い活動をしていく。	・高校1年生の特別伝道礼拝分科会にて、近隣教会の牧師を講師としてお招きし、高校生の地域教会との交流を図っている。 ・コロナ感染拡大以前は高校1年生、2年生に教会訪問の課題を出していたが、現在は停止している。	
		3	礼拝堂でのコンサートや講演会などを通して地域活動に貢献する。	・従来実施してきた生徒コンサートやクリスマスコンサートは新型コロナウイルス感染防止のため、生徒・保護者のみの参加で実施し、地域の方々をお招きすることができなかった。 ・サマーコンサートは、生徒の保護者の方でフラメンコ・ギターの第一人者の演奏を、生徒・保護者に加え、地域の方々にも楽しんでもらうことができた。	
(2) 伝統を活かす	⑥	新島ブランドの構築と強化	1	HP・Facebookからの情報発信の迅速化、リニューアルをしていく。	・今年度は、ほぼ週1回以上のHP記事更新を習慣化できた。 ・Facebookでは部活動を中心とした記事を取り上げている。 ・HP全体のリニューアルを行い、2023年4月上旬に新HPを公開する予定。
			2	新島学園ファーム等の活動に、生徒と共に安中ロータリークラブ・PTA・地域の方々、同窓会などを巻き込んで地域生産的な活動をしていく。菜の花だけでなく、いろいろな作物栽培や地域おこし体験をしていく。	・中学生のLHRの時間を活用し、各学年が新島学園ファームの作業に参加しており、生徒が自然に触れるよい機会となっている。理事長・学園長が、地元の繋がりを通じて、安中ロータリークラブや保護者の協力を得ている。菜の花のほか、大豆、小麦の栽培も始める。
			3	「夏出来油」などの製品化と「みんなの新島学園基金」を広めていく。	・菜の花の実から、菜種油を抽出し、「夏出来油」を製品化しており、寄付金の返礼品に用いている。 ・菜種油に次いで、大豆の生産から、「夏出来醤油」、「夏出来納豆」の製品化、また味噌の製造などに生徒たちが係わるようなことを検討している。
⑦	ICT環境整備と生徒・教職員の支援強化・将来を見据えたキャンパス計画	1	中学1年・中学2年・高校1年・高校2年生が、一人一台iPadを持ち、活用していく。そのための教員によるiPad操作のための研修も行う。	・教員のiPad研修は、夏休み期間中や2学期に入り複数回実施した。 ・教員間の情報共有と使用技術の向上を行い、iPadの積極的な活用を推進している。 ・また、教科内や学年内でiPad利用状況報告の会議を行い、iPadの使用技術などの情報共有を行っている。 ・生徒は、クラスの連絡や授業の連絡に使用し、授業内でも積極的に使用し始めている。 ・来年度より全学年が導入するため、各学年のLHRなどで計画的に実施する検討が必要である。	
		2	情報モラル教育やデジタル研修などの強化を図る。	・中1から高1まで安中警察の方から情報モラル講習会をしていただいている。高2は、情報の授業にて実施している。	
		3	中長期キャンパス計画に基づいた安心・安全な環境整備および施設の老朽化による将来設計を推進する。	・本・北校舎爆裂補修 ・本・北校舎、第1グラウンドLED照明化 ・本・北校舎建物検査 ・本校舎南側屋上防水工事 ・部室棟建物検査 ・本校舎給排水設備検査	
⑧	同志社大学とのネットワーク	1	教育育成プログラムの開発を行っていく。	・開校記念日に、新島学園にゆかりのある方に来ていただいて講演をしていただいている。今年の開校記念講演会は、荒谷出先生(共愛学園)に来ていただき3回にわたって講演していただいた。 ・1月の新島聖百天記念礼拝には、同志社大学キリスト教文化センター森田善基先生に来ていただき3回にわたって礼拝を行っていただいた。	
		2	同志社事務局(企画部)との連携を強化していく。	・毎年3月に行われる本校中学2年生の研修旅行において、同志社大学を見学し、礼拝に参加している。 ・毎年10月に同志社国際学院初等部が新島聖の故郷である安中訪問を行っている。新島学園を訪れ、交流を持っている。また、安中教会など新島聖の足跡をたどっている。コロナ感染拡大のため、阻まれていたが3年ぶりに行うことができた。 ・中2研修旅行において同志社大学訪問が実現した。	
		3	同志社高大接続特別プログラムキリスト教ネットワーク校との連携を密にしていく。	・6月21日(火)同志社大学・同志社女子大学の大学説明会を行った。 ・9月10日(土)同志社大学理工学部「同志社大学 世界に羽ばたく科学するガールズ〜いっしょに科学の世界に飛び込む〜」トークセッション(中学3年、高校1年の女子生徒7名参加)が新たに行われた。 ・11月9日(火)、15日(火)に「同志社大学キリスト教主義学校のネットワーク校高大接続特別プログラム」が行われた。高校3年生28人、高校2年生9人計37人が参加。 ・理系女子を対象とした講義・説明会が開催された。本校から、女子生徒4名が参加した。	